

防災教育全体計画

須賀川市立西袋第二小学校

教育目標

自ら学ぶ、豊かな人間性とじょうぶなからだをもった子ども

<児童>

- ・地震、台風への関心は高いが、その他の災害に対する関心は低い。
- ・避難訓練等には、真面目に取り組む。
- ・校外での避難行動については、どのように行動すればよいか不安をいっている児童が多い。

防災教育の目標

- 地震、津波、豪雨・土砂災害等の自然災害や感染症対策の知識・理解を深め、自助・共助・公助の意識を高める。
- ・災害時に自らの安全を確保するための判断力・行動力を育てる。
 - ・助け合い、ボランティア精神など「共生」の心を育み、人としてのあり方、生き方を考える児童を育てる。

<家庭>

- ・危機意識に温度差が見られる。
- ・防災に対する関心は高いが、具体的な備えや災害時の対応等について課題が見られる。

防災教育におけるめざす児童像

- 自分の命を自分で守る子
- 防災についての基礎的、基本的な事項を理解できる子
- 災害発生時には、集団や地域の安全に役立つことのできる子

<地域>

- ・地域のつながりが強い。
- ・学校及び地域集会所等を避難場所としている。

推進の視点

<p>【Ⅰ】防災についての基本能力を身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そなえるふくしまノート」の活用 ・災害発生時に身を守る方法 ・災害発生時に、自分で考え、適切に判断し、行動できる実践力 ・災害を乗り越えるためにみんなで助け合う共生力 【生活科・社会科・体育科・学級活動・総合的な学習の時間・学校行事等】 	<p>【Ⅱ】人としての生き方・あり方に迫る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命を尊重する心の育成 ・他者を思いやる心の育成 ・ボランティア活動に積極的に参加しようとする心の育成 <p>【生活科・国語科・社会科・体育科・道徳・学級活動・総合的な学習の時間等】</p>	<p>【Ⅲ】科学的理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震、津波、豪雨・土砂災害等の自然災害の種類と発生メカニズム、感染症対策（免疫力）についての理解 ・地域の災害の歴史と対策についての理解 ・今後の防災体制の理解 <p>【生活科・社会科・理科・総合的な学習の時間・学校行事等】</p>
--	--	---

防災教育の重点

<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震、津波、台風・土砂災害等の自然災害や感染症拡大が生じた際に、災害に応じて、自分の身を守ることができるようにする。 	<p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震、津波、台風・土砂災害等の自然災害、感染症拡大が生じた時に、災害に応じて自ら適切な判断ができるようにする。 	<p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震、津波、台風・土砂災害等の自然災害や感染症拡大が生じた際に、災害に応じて自ら適切に判断し、他の人の安全にも気配りができるようにする。
---	--	---

各学年の目標

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で地震、火災等が起こった時に身を守る安全な行動がとれるようにする。(避難の決まりと約束を知る) ・通学路に関心を持ち自然災害発生時の避難の仕方を知り、安全な登下校ができるようにする。 ・自然災害や感染症の怖さを知り、適切な避難や対応の仕方を身に付ける。 ・災害時の対応について家族と話し合い、防災意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で地震、火災等が起こった時に身を守る安全な行動がとれるようにする。(避難の決まりと約束を知る) ・通学路に関心を持ち自然災害発生時の避難の仕方を知り、安全な登下校ができるようにする。 ・自然災害や感染症の怖さについて理解し、適切な避難や対応の仕方を身に付ける。 ・災害時の対応について家族と話し合い、防災意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の地形や特色を理解し、災害時の避難の仕方を知り、安全な行動がとれるようにする。(避難の決まりと約束を知る) ・地域の防災対策施設、設備を調べ、地域ぐるみで自然災害に備えていることを知り、自分ができることを積極的に行動できるようにする。 ・自然災害発生に伴う危険や感染症について考え、適切な避難の仕方や対応を身に付ける。 ・東日本大震災について知り、防災意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会における自然災害から身を守る工夫について知り、安全な行動がとれるようにする。(避難の決まりと約束を知る) ・地域の防災について、家族や地域の人々から聞き取り、一人一人が防災について考え、適切な行動ができるようにする。 ・今後予想される巨大地震の危険性について考えることで、防災意識を高める。 ・感染症対策の理解を深め、実践意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後予想される巨大地震の危険性について考えることで、防災意識を高める。(避難の決まりと約束を知る) ・地震の震度やマグニチュード、津波や土石流の速度や破壊力等について知り、年少者を助けながら避難する仕方を身に付ける。 ・避難時に必要なものを考え、自分で準備物をそろえることができる。 ・過去の東日本大震災の体験を聞くことで、防災意識を高める。 ・感染症対策の理解を深め、実践意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後予想される巨大地震の危険性について知り、防災意識を高め、現在の避難の仕方に生かす。(避難の決まりと約束を知る) ・地震の震度やマグニチュード、津波や土石流の速度や破壊力等について詳しく調べ、安全な行動の仕方を理解する。 ・地震速報や津波予報システムを知り、年少者を助けながら避難する仕方を身に付ける。 ・避難場所での各自の役割について考え、年長者としての自覚を高める。 ・感染症対策の理解を深め実践意欲を高める。

放射線教育・防災教育に関する主な領域及び指導内容（第5学年）

防災教育の学年テーマ

→災害や防災について正しく理解し、お互いに助け合いながら、命を守りぬく力を身に付けよう。

	1 学期	2 学期	3 学期
学校行事 児童会活動	避難訓練（4月） 異年齢集団による交流	交通教室（9月） 避難訓練（11月）	避難訓練（1月）予告なし →
道徳	生命の尊さ「おばあちゃんが残したもの」「コースチャぼうやを救え」「クマのあたりまえ」 家族愛「お父さんのお弁当」 親切・思いやり「ノンステップバスでの出来事」「くずれ落ちた段ボール」 勤労・公共の精神「お父さんは救命救急師」「わたしのボランティア体験」 感謝「ありがとうを上手に」		
国語	○目的に応じた引用について（6月） ・目的に応じて、震災に関連した材料を分類したり関連付けたりして、調べたことを正確に報告する。	○新聞を読もう（9月） ・震災に関する事実と感想、意見などとの関係を押さえ、論の進め方を理解する。 ○資料を用いた文章の効果（10月） ・震災に関する統計資料を集め、自分の考えを裏付けるものとなるかを考えながら、表やグラフを用いて書くこと。	○想像力のスイッチを入れよう（1月） ・事例と意見（印象）の関係を押さえて読み、考えたことを伝え合う。
社会	<わたしたちの国土> ○国土の地形の特色（4月） ○国土の気候の特色（5月） ・自然災害の防止について学習する。	<情報化した社会と産業の発展> ○情報を生かす産業（12月） ・地震や災害を即時に伝える取り組みについて学習する。	<わたしたちの生活と環境> ○自然災害を防ぐ（2月） ○環境を守るわたしたち（3月） ・国や地方公共団体による災害復旧の取組みを学習する。
算数	<比べ方を考えよう>（11月） ・体育館の面積と避難者の人数から、込み具合の比べ、単位量当たりの大きさを考える。 <割合>（1月） ・二つの数量の関係について、割合で比べたり、百分率による割合の表し方を理解する。		
理科	<天気の変化>（4月） ・天気の変化は、雲の量や動きと関係があることを理解する。	<台風と天気の変化>（9月） ・雲の量や動きに着目して台風の動き方と天気の変化の仕方を調べる。 <流れる水の働き> ・川の水によって起こる災害や災害に対する備えについて、調べたり考えたりする。	<電流がうみ出す力>（1月） ・電流がつくる磁力について、身の回りの道具を調べたり、電力の発生について、学んだことを学習や生活に生かしたりする。
総合	<災害から身を守ろう> ○過去の災害を教訓として、災害が起きた場合に備え、命を守るための行動や備えを理解する。 ○「コミュタン福島」見学学習 ・放射線や放射能、放射性物質について理解し、放射線から身を守る適切な行動を考える。 ○「防災出前講座」 ・土砂災害のメカニズムや危険性を理解し、自然災害から自分たちの命を守るための知識と行動力を身に付ける。 ○「県危機管理センター」見学学習 ・県危機管理センターを施設見学し、様々な防災教育を学習することを通して、命を守る行動や備えることの大切さを学習する。		
家庭	持続可能な暮らしへ（7月） ・環境や資源に配慮した生活を考える。	上手に暮らそう（9月） ・食事の役割と栄養のバランスを考える。	ミシンにトライ（1月） ・手づくりのよさを生活に生かす。
体育（保健）	<心の健康> ・適度なストレスと心身の成長について理解する。	<感染症の予防> ・感染症の予防には、病原体が身体に入るのを防ぐことや抵抗力を高めることの必要性を理解する。	<けがの予防> ・災害での事故やけがの多くは、人の行動と周りの環境が原因で起こっていることを理解する。
学級活動	<放射線について考えよう> ・放射線等に関する知識を得る。 <放射線から自分を守ろう> ・放射線の種類、性質、利用について知る。		
地域連携	○地域探検	○PTAによる危険箇所点検 ○児童引き渡し訓練	

放射線教育・防災教育に関する主な領域及び指導内容（第6学年）

防災教育の学年テーマ

→災害や防災について正しく理解し、命を守るために、自ら考え判断し、行動する力を身に付けよう。

	1 学期	2 学期	3 学期
学校行事 児童会活動	避難訓練（4月） 異年齢集団による交流	交通教室（9月） 避難訓練（11月）	避難訓練（1月）予告なし
道徳	生命の尊さ→「命の重さはみな同じ」「お母さんへの手紙」「東京大空襲の中で」 家族愛→「おばあちゃんの探しもの」 親切・思いやり→「みんな一緒だよ」「心に通じたどうその一言」 感謝→「土石流の中で救われた命」 自然愛護→「タマゾン川」		
国語	○時計の時間と心の時間（5月） ・筆者の主張の事実と感想、意見などの叙述を押さえ、理解したことをまとめ、震災後10年を振り返る。	○日本文化を発信しよう（11月） ・伝えたい日本文化について必要な情報を集め、絵や写真と文章との組み合わせを工夫して、その魅力を伝える。	○メディアと人間社会（1月） ・筆者の主張と事例の構成を捉え、これからの生き方について友だちと交流する。
社会	<震災復興の願いを実現する政治>（5月） ・災害復旧の取組は、国の政治の働きによるものであることを理解する。 <新しい日本、平和な日本へ>（2月） ・現在の日本が抱える問題や果たすべき役割について考える。		
算数	<どんな計算になるのかな？>（7月） ・演算決定の過程を数直線や図、言葉などの式を書いて説明し、数量の関係を捉える。 <データの特徴を調べて判断しよう>（11月） ・統計的な問題解決の方法を用いて問題解決する力や今後の生活や学習に活用する態度を養う。		
理科	<物の燃え方と空気>（4月） ・化石燃料の大量消費による二酸化炭素の増加と、環境に与える影響との関係について考える。	<変わり続ける大地>（10月） ・地震や火山の噴火に興味をもち、資料を活用して、地震による大地の変化を調べる。	<地球に生きる>（2月） ・人の環境保全に対する取組みや災害に対する備えについて調べ、まとめる。
総合	<災害から身を守ろう> ○過去の災害を教訓として、災害が起きた場合に備え、命を守るための行動や備えを理解する。 ○「ムシテック・ワールド」見学学習 ・放射線や放射能、放射性物質について理解し、放射線から身を守る適切な行動を考える。 ○「防災出前講座」 ・土砂災害のメカニズムや危険性を理解し、自然災害から自分たちの命を守るための知識と行動力を身に付ける。 ○「伝承館」見学学習 ・伝承館の施設見学し、複合災害の現状を理解するとともに、復興に向けた取組みを学んだり、これからの地域づくりを考えたりする。		
家庭	<私の仕事と生活時間>（4月） ・家族の一員として、家庭の仕事について課題を見出し、生活をよりよくしようとする。	<家族が喜ぶ食事を作ろう>（10月） ・家族のために栄養バランスがよい献立を考えたり、防災食づくりに挑戦したりする。	<あなたは家庭や地域の宝物>（3月） ・家族の一員として、家庭や地域とのかかわりを考え、できることを実践しようとする。
体育（保健）	<感染症の予防>（4月） ・感染症予防の方法を考えたり、体の抵抗力を高めたりすることを理解する。	<生活習慣病の予防>（11月） ・生活習慣病の原因を理解し、健康によい生活習慣について考える。	<地域の保健活動>（3月） ・地域の保健活動を調べ、よりよい生活習慣を積み重ねることの大切さに気付く。
学級活動	<放射線について考えよう> ・放射線等に関する基礎知識を得る。 <放射線から自分を守ろう> ・放射線の種類、性質、利用について知る。		
地域連携	○地域探検	○PTAによる危険箇所点検 ○児童引き渡し訓練	

1 単元名 「さいがい」から身を守ろう

2 単元目標

日本は自然災害の多い国であることを、データから知り、災害が起こった際にどのようにして自分の身を守るか考え、家庭において非常用具を整えるなど実践に移すことを通して、実際の自然災害が起こった際に身を守る適切な行動ができるようにする。

3 児童について

4年生が4名、5年生が8名のクラスである。支援学級の5年生が1名、総合的な学習などの場合には一緒に学習している。

本校では、毎年避難訓練を行い、自分の身を守る学習をしている。その参加態度は真剣であり、毎年きちんと反省もしている。火災の際の初期対応のあり方、地震の際の初期対応のあり方なども理解している。

また、4年生は社会科の学習で、「自然災害から身を守る」の単元で地震に対する地域の備え、人々の協力、国や県、市としての取り組み等について学んでいる。

5年生は理科の学習「流れる水のはたらき」で水による浸食の災害について学んでいる。水害については知識が豊富である。堤防の重要性や消波ブロックの働きなども学んでいる。また、土砂災害については出前講座で学習し、その恐ろしさについても理解している。

4・5年生とも避難訓練などで自分の命を守るという学習までしかしたことがなく、その後の事について考えた経験が乏しい。火災が起きたらハンカチで口を押さえて逃げる、地震が起きたら机の下にかくれるといった所までの理解にとどまっている。また、出先での避難についても十分に理解しているとは言いがたい。多様な状況からの避難を想像したり、考えたりすることは難しいのが現状である。

さらに、ライフラインが止まったらどのようなことになるのかということについて理解が及ばず、実際に経験したこともない。

4 教材について

本単元では「東日本大震災」における本校や須賀川市の被害の様子、昨年台風19号での被害の様子などを提示する。具体的な写真は事実として児童に迫っていくことだろう。特に本校の大震災における写真や行ったことのある場所が水没している写真は児童が自分の命を守るためにどう行動していくべきかについて真剣に考える機会になると思われる。

また、これまで福島県が被害を受けた地震や水害などの歴史にも迫る。さらに、福島県に被害の出る可能性がある、マグニチュード7～7.5程度の地震の発生確率が、今後30年で90%で起こる事も紹介し自分事としてとらえ真剣に学習に取り組んでいけるように考えていきたい。

その上で、県の危機管理センターを見学する。特にVR体験ができることもあり、実際に目の前で災害が起きた場合にはどのような状況になるかととらえさせ、学習を深めていきたい。

それらの学習を元に、生き延びた後の生活について考えさせていく。「そなえるふくしまノート」などを活用して学習を進めていく。最後に今まで学んだことのまとめとして新聞を作らせる。新聞をつくりながら自分の行動、非常用物品の準備などについてふり返っていく機会となる。

5 指導について

県危機管理センターの見学に向けて、自分たちの学校、市の防災対策について基礎的な知識を持ち、それを元に質問事項を考え、進んで体験することができるように心構えを作っていく。更に、見学した後は実際に自分たちの学校の危険箇所はどこか調べ学習を取り入れ、普段何気なく遊んでいる教室、体育館にも危険な箇所があり、地震の際にはどのように行動すべきか、火災の際にはどのように行動すべきかを進んで考えることができるようにしたい。

それらの体験を元に非常用物品の準備について考えさせる学習につなげていきたい。

6 単元全体の評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然災害について知り、避難行動の在り方、災害に対する備えの在り方について理解している。	どのような自然災害に対しても落ち着いて行動し、適切に判断している。	進んで家庭でも防災について話し合い、その成果を学校でも共有し合いより良い防災を考えようとする。

7 単元の指導計画

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1時	自然災害の種類について知り、今後も災害は起きていく	過去の災害の資料から自然災害の恐ろしさをプリントにま	今後どのような自然災害について学習を進めていくか

	であろうことを理解している。	とめることができる。	考え、追究しようとする。
第2時	過去の災害で福島や須賀川市がどのような被害を受けたか理解している。	東日本大震災や台風19号の様子、ハザードマップから自分たちの地区で気をつけなければならない自然災害をしばっている。	被害を受けた人々に共感し、被害を少なくするにはどうしたらよいか考えようとしている。
第3時	須賀川市・福島県の防災の協力体制と仕組みについて詳しく理解している。	須賀川や福島県ではどのような防災対策を行っているかを予想し、調べ、なぜそのような対策が必要か考え、危機管理センターで、質問すべきことを考えている。	多くの対策がなされており、それらには多くの人が関わっており、たくさんの努力・工夫があることを知り、感謝の気持ちをもとうとしている。
第4時 5時 6時	県の危機管理センターを見学し、実際に県ではどのような防災の取り組みをしているか確認している。	県の防災に必要な事について県の危機管理センターの係の方に質問し自分の疑問を解消している。	進んで質問し自分の疑問を解消しつつ新しい疑問を見つけようとしている。
第7時	学校で地震が起きたときの危険箇所を自分たちなりに考えて、調べている。	天井、掲示物の落下、ロッカーなどの倒壊などの危険性を考えている。	校内を歩き、危険な箇所を友達と協力して見つけようとしている。
第8時	学校で地震が起きたときの危険箇所を確認し、正しい避難行動の練習をしている。	なぜその行動をすることが命を守ることになるのか具体的な学校の各所での行動のしかたをプリントにまとめている。	学校での避難行動の在り方について意欲的に考え、進んで「シェイクアウト」しようとするとともに家庭にも伝えようとしている。
第9時	家庭で地震が起きたときの、正しい避難行動と非常用物品について確認している。	学校での避難行動を元に家庭での避難行動はどうあるべきか判断している。	家庭での危険箇所に気づき家族に相談して危険箇所を減らす努力をするとともに非常用物品について確認しようとしている。
第10時 (本時)	自然災害に備え非常用の物品を備えておく必要があることを知り、自分の家に適した非常用物品を考えている。	家庭の非常用物品を考え、班の中でその必要性を発表するとともに友達の考えを聞き、自分の家に必要かどうか判断している。	家にあったもの、足りなかったものを進んで発表し、班で話し合いながら災害時のどんな状況でどんな物品が必要になるか考えようとしている。
第11時	非常用の物品について前時の話し合いをもとにどんなものが必要か確定しようとしている。	非常用物品のストックのしかたを考えローリングストックなどの方法を考えようとしている。	家の人に非常用品のストックについて紹介し、進んでローリングストックを紹介しようとしている。
第12時 13時	学習してきたことを新聞にまとめようとしている。	見学してきたこと、学習してきたことをもとに更に疑問点について調べようとしている。	学習したことをもとに自分だけでなく家族・地域の方々と生き残るにはどうしたらよいか考えようとしている。
第14時	完成した新聞を読みあい、自分の気づかなかった点について書いている友達から学び、自分の新聞に付け加えようとしている。	自分が気付かなかったことを書いている友達の新聞のよさに気づこうとしている。	よりよい新聞になるように自分のまとめを見直そうとしている。

8 本時のめあて

自然災害に備え非常用の物品を備えておく必要があることを知り、災害時のどんな状況でどんな物品が必要になるかを班で話し合い、自分の家に適した非常用物品を進んで考えることができる。

9 指導過程

(1) 指導方法の工夫


- 手だてア 身近な日常生活の体験や事例などを題材にした話し合いの工夫
- 手だてイ 思考を深める発問の工夫
- 手だてウ 実践につながる体験活動の工夫
- 手だてエ 地域の人材の活用や養護教諭などとの連携・協力
- 手だてオ 問題の状況や原因を理解し、解決の方法を考えるための教材や資料の工夫

(2) 本時の指導過程

段階	学習活動・内容 ○主な発問	時間	●指導上の留意点 ☆評価
導入	1 地震が起きたとき取る行動の復習をする。 2 本時の学習課題をつかむ。 地震に備えどんな準備をすればよいか考えよう	5	●前時の復習、シェイクアウトについて確認し、実際に机の下にもぐる。その際、素早く潜って動かないように机の脚を持つように確認する。手だて(ウ) ●時間をかけず、黒板にめあてをはって確認する。
展開前半	3 東日本大震災後のライフラインの停止について考える。 ○東日本大震災では地震の後どのような困ったことが起こったのでしょうか。 4 東日本大震災ではどのくらいでライフラインが回復したか確認する。	5	●実際の東日本大震災の資料を提示し考えさせる。 手だて(オ) ・家の倒壊 ・食料品等の品物の不足 ・停電 ・断水 ・ガスが止まる ●ライフラインが止まった不便な生活がどのくらい続くか確認し、対策を取っておく必要性をとらえさせる。
展開後半	5 ライフラインが止まるとどんな困ったことが起きるか話し合い、それに対してどんなものを準備すべきか考える。 ○地震に備えてどんなものを準備するべきでしょうか。班で相談してボードに書きましょう。 ○各班ごと、発表しましょう。 ○質問はありませんか。	30	●前時に各家庭で準備してあるもの、準備しておくべきものについて調べるように投げかけている。そのことを基に話し合うように促す。 ●班で話し合いお互いの考えを補い合う。手だて(イ) ●班で話し合ったことを発表し共通理解を図る。 ●どのくらいの量を準備するべきか、どんな場面で必要になるかを意識させて質問をできるようにする。
終末	6 家庭に準備すべきものの準備してもらえよう意欲付けする。 ○家にあった方がいいと思うものをプリントに書きましょう。 ○今日の学習の感想を書きましょう。	5	●実際に行動できるように励ます。手だて(ウ) ●次時までには家庭の非常用物品のストックを確認するように促す。手だて(ウ) ☆家に準備しておくべきものを理解し、進んで実践しようとする意欲をもつことができたか。(観察・発言)

10 板書計画

地震に備えどんな準備をすればよいか考えよう



東日本大震災の時の復旧

- ・電気→ 6日
- ・水道→ 24日
- ・ガス→ 34日

家にどんなものを準備しておくべきか。

- ・数
- ・どんな場面で使うか。

まとめ

第6学年 体育科授業案（保健分野）

令和2年11月5日（木） 第4校時
場所 6年教室 授業者 河村 徳子
吉田 咲良

1 単元名 病気の予防 「感染症の予防」

2 感染症について正しく理解し、実践するための指導方法の工夫

- ア 身近な日常生活の体験や事例などを題材にした話し合いの工夫
- イ 思考を深める発問の工夫
- ウ 実践活動につながる体験活動の工夫
- エ 地域の人材の活用や養護教諭などとの連携・協力
- オ 問題の状況や原因を理解し、解決の方法を考えるための教材や資料の工夫

3 本時の学習

(1) 本時のねらい

感染症の予防には、病原体が身体に入るのを防ぐことや病原体に対する抵抗力を高めることの必要性を理解することができる。

(2) 「自分の思いを表現し、学び合う子どもを育てる」ための手立て

- ワークシートを活用し、課題解決についての見通しを明確にもたせる。
- 学習形態を工夫し、自分の考えや気づきを友達と交流させる。

6 学習過程（2/8）

学 習 活 動 ・ 内 容	時間	○指導上の留意点 ◇評価
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 感染症を予防するためにはどうすればよいのかを理解しよう。 </div>	5	○ 病気は、病原体・抵抗力・生活行動・環境が関わり合っていることを確認し、その一つ「病原体」が身体に入り増えていく「感染症」から身を守る方法を学習することを知らせる。【学習活動 やってみよう】 ※新型コロナウイルス感染症にも触れる。
2 病原体はどのようにして身体の中に入ってくるのかを考える。 ・インフルエンザやノロウイルス感染症の症状や感染経路を確認する。	20	○ スライドを見ながら自分の経験や聞いたことなどを想起させ、身近にある感染症について関心をもたせる。 ○ どんな感染経路（空気・飛沫・接触）が考えられるか全体で確かめる。 オ
3 感染しないための予防策はどうすればよいのかを考える。 ・感染しないための予防策を話し合う。（ペア学習） ・全体で確認する。 ・予防策を分類する。		○ 感染経路に注目させたり日頃の生活を振り返らせたりして予防策を考えさせる。出された意見は発表ボードに書き発表させる。 ア ○ 出された意見を三つ（なくす・道筋を断ち切る・抵抗力を高める）に分ける。 オ 予防接種の仕組み、有効性について説明する。 エ
4 感染症対策（防災）を考える。（グループ学習）	15	○ 三つの予防策について確認し、避難所における感染症対策を責任者目線で考え、アイデアを出し合う。 イ
5 学習のまとめをする。	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◇ 感染症を予防するためには、三つの方法があることがわかる。 </div>

〔授業の実際〕

1. 「感染症」の定義

T: 病気になる原因の一つ、「病原体」がもとになって起こる病気を「感染症」と言います。

: どんな感染症を知っていますか。

C: インフルエンザ、ノロウイルス、はしか、水疱瘡、とびひ…

T: 教科書で確認してみましょう。どんな症状になりましたか？

: 今日は、感染症のことを知り、どう予防したらいいのかを考えましょう。



め 感染症を予防するためには、どうすればいいのかを理解しよう。

2. 感染経路を考える (病原体がどのように身体の中に入ってくるのか。)

T: スライドを見せながら、インフルエンザやノロウイルスが体内に入り増えることで発症すること、どのような症状になるのかを確かめさせる。

: どうやって身体の中に入ってきたのでしょうか。スライドを見せながら考えさせる。

C: 空気感染、飛沫感染

T: ノロウイルスは？汚れた手や病原体がついている食べ物から入るんだよね、つまり？たくさんの方が触るところ、例えばドアの取っ手や机などからも手指を介して感染するから？これを接触感染（経口感染）と言います。明白な分類は難しく、空気感染と飛沫感染とも関わって感染します。



3. 感染しないための予防策を考える

T: ペア学習をさせ、ボードに書かせる。それぞれ発表し、質疑応答をさせる。

C1 ペア: ヤクルトやR-1 はなぜ予防になるのか？

C2 ペア: 腸に働きかけ抵抗力を高めるから。

C3 ペア: マスクをしていれば人混みに行ってもいいのでは？

C4 ペア: マスクの編み目は、細菌やウイルスを通してしまうため

安心できない。感染している人からの飛沫をさけるためにも、マスクはした方がいい。

C5 ペア: アルコール消毒をする。換気をする。

C6 ペア: 予防接種を受ける。 等



T: 予防策は3つに分類することができます。

「病原体をなくす」「病原体のうつる筋道を断ち切る」「体の抵抗力を高める」です。皆さんが考えた予防策を当てはめてみると、アルコール消毒はどれに分類されますか？

C: 「病原体をなくす」です。

T: 他にも「人混みをさける」は「筋道を断ち切る」(感染経路・感染ルートともいいますね。) ○○君のペアが出してくれた予防接種は？

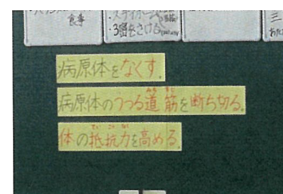
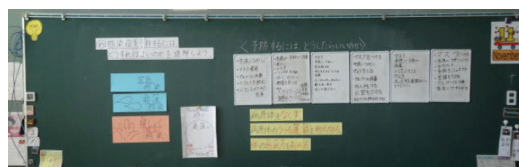
C: 抵抗力ですか？

T: そうです。ここで、保健の先生から「予防接種」について説明してもらいましょう。

T 2: 予防接種の有効性と抵抗力(免疫)について説明していただく。

T: では、スライドを見ながら、予防策を整理していきましょう。

C: スライドを見ながら、予防策をワークシートに書き込む。



4. 避難所における、感染症対策を考える

T：防災学習をしている中で、感染症も自然災害の一つだということを〇〇さんが見つかりました。阿武隈川や釈迦堂川の近くには水没してしまう避難所があることを〇〇君が見つかりました。そして水害が起こってもこの地区は安心だということもみんなを確認したのですが、もしその川が氾濫したら、そこに住んでいる町の人はどこに避難するでしょう？

C：西二の体育館に来るかもしれない。

T：そこで、みんなが責任者になったつもりで今日の学習を活かして避難所の感染症対策を考えて欲しいと思います。

4人グループ学習をさせ、浮かんだアイデアを付箋に書かせ、画用紙に貼らせる。



5. 学習のまとめをする

ワークシートに本時のまとめを書かせ、数名発表させる。

C：感染症を予防するためには、三つの方法があることが分かった。

C：自分一人でも簡単に予防できるので自分のためにもみんなのためにも対策しようと思う。

C：感染症を発症しないように抵抗力をつけたい。そのために運動をして早く眠るようにする。

[考察]

1. 「自分の思いを表現し、学び合う子どもを育てる」ための手立て

○ワークシートを活用し、課題解決についての見通しを明確にもたせる。

①スライドを活用しながら、身の回りで起きる感染症についてその原因や感染する道筋について、整理することができた。次の課題への見通しをもつことができた。

②感染予防策をペアで考えた際、発表ボードを活用した。多くの方法がでたが、一つ一つを検証する時間の確保が難しく、ワークシートを活用したことで感染予防を正しく分類することができた。発表が苦手な児童にとってもわかりやすい内容にした。

※ワークシートは穴埋め式だったため、簡単にまとめられるが、自分のことばで書かせた方が、知識として学びが深まったのではないかな。

○学習形態を工夫し、自分の考えや気づきを友達と交流させる。

ペアや4人グループでの活動は、自分の思いを友達に伝えたり考えを聞いたりすることができ、より学びを深めることができた。6年生ということもあり、今までの学習の積み重ねが感じられた。今後も感染対策（ペア学習でも机を向き合わせるなど）をしっかりとしながら子ども同士の学びを大切にしたい。

2. 学んだことを活かす

防災教育の一環として感染症対策の授業を行った。予防策を学んだ後、実際災害が起こったら、避難所ではどんな感染症対策を行ったらよいのかについて考えさせた。子ども達は、授業で学んだことや新型コロナウイルス感染症で普段体験している予防策を持ち寄り、画用紙を埋めていった。「お腹が空くから食糧を確保する」のではなく、「抵抗力を高めるため」と発表したグループも見られた。子ども達なりに感染症に対する予防策にしっかりと「意味づけ」ができていたように感じた。今後も、学んだことをどう活かしていくのかを考えながら、授業に取り組んでいきたい。

